資料 2

地域医療構想推進シート

令和 7 年度

区域名	中空知

1 地域医療構想の実現に向けた取組の方向性

医療機関の機能(診療科)や体制(救急医療体制等)が一部重複していることによる役割分担等に向けた取組	現状・課題	救急医療や一部の診療科において中核病院に過度の負担が生じる状態となっており、「かかりつけ医」の普及や病診連携・病病連携による医療資源の有効活用が必要である。
	目指す姿	切れ目のない医療提供体制を構築するため、適切な役割分担や連携体制の構築、医療従事者の確保について、地域センター病院である砂川市立病院を始めとして圏域内の各医療機関による協議を進める。
急性期医療を受けた後の患者の受け皿となる医療機能(回復期病床)の確保に向けた取組	現状・課題	一部の医療機関において急性期病床から回復期病床への転換が行われているが、今後、高齢化の進行に伴い、急性期医療を受けた後の患者の在宅復帰に向けたリハビリテーションの需要増加が見込まれることから、回復期病床の不足が予想される。
	目指す姿	在宅復帰を果たすことができる医療提供体制を整備するため、基金事業を活用し、病床転換等による回復期病床の確保を図る。
限られた医療資源(病床や医療従事者等)を有効に活用するための医療機関の再編統合等に向けた取組	現状・課題	一部の医療機関において、病床からサービス付き高齢者向け住宅への転換が行われている。また、平成27年度にICTを活用した地域包括ケアネットワークシステム(砂川みまもりんく)、平成28年度に中空知医療連携ネットワークシステム(そらーねっと)が導入され、患者情報の共有が行われている。なお、平成30年度に一般社団法人滝川市医師会が窓口となり、滝川市内の医療機関に専用端末が整備され、中空知医療連携ネットワークシステムへの接続が可能となった。
	目指す姿	患者情報共有ネットワークシステムの拡充等により、適切な医療機能の分担や、医療機関と介護事業所等の連携を推進し、地域包括ケアシステムを構築する。
高齢化の進行に伴い、住み慣れた地域や自宅での生活を支えるため、その受け皿となる在宅医療等の確保に向けた取組	現状・課題	基金事業の活用により、在宅医への支援、訪問診療ポータブル機器等の導入による在宅医療提供体制の整備が進められているものの、在宅医療を担う医師等の確保が課題となっている。
	目指す姿	基金事業を活用し、これまでの取組に加え、平成30年度に砂川市が開設した訪問看護ステーションの整備運営支援等により、在宅医療提供体制の充実を図る。また、在宅医療を担う人材育成や、多職種連携を推進するための研修会を実施するとともに、地域住民に「かかりつけ医」、「かかりつけ歯科医」、「かかりつけ薬局」を持つことの必要性について普及啓発を図る。
地域(市町村)における高齢者の住まいの確保等に向けた取組	現状・課題	サービス付き高齢者向け住宅、軽費老人ホームの増床、介護老人保健施設の整備等が行われているが、今後も高齢者の増加が見込まれることから、高齢者が安心して暮らせる住まいの確保について検討する必要がある。
	目指す姿	基金事業を活用し、病床機能分化により急性期病床から回復期病床への転換や一般・療養病床から介護保険施設等への機能転換等を進め、高齢者が安心して暮らすことができる環境の整備を図る。

2 圏域内における医療機能及び他圏域との連携等の必要性

区分		指定医療機関等の名称	連携・協議が必要な圏域名 (自圏域での対応が困難な疾病等)
5疾病	が ん	がん診療連携拠点病院:砂川市立病院 がんゲノム医療連携病院:砂川市立病院	
	脳卒中	急性期:医療法人翔陽会滝川脳神経外科病院、砂川市立病院 回復期:市立芦別病院、あかびら市立病院、医療法人翔陽会滝川脳神経外科病院、滝川市立病院、奈井江町立国民健康保険病院、医療法人脳神経よしだクリニック、医療法人優仁会若葉台病院	
	心筋梗塞等の心血管疾患	急性期:滝川市立病院、砂川市立病院	
	糖尿病	【芦別市】 勤医協芦別平和診療所、市立芦別病院、橋本内科医院 【赤平市】 あかびら市立病院、医療法人社団博友会平岸病院、佐々木内科クリニック 【滝川市】 医療法人優仁会滝川中央病院、医療法人圭仁会佐藤病院、医療法人社団鈴木内科クリニック、医療法人社団青藍会クリニック、滝川市立病院、医療法人圭仁会佐藤医院、医療法人社団おおい内科循環器クリニック、医療法人祐仁会石田クリニック、男澤医院、医療法人社団みどり会眼科近藤医院、医療法人社団えべおつファミリークリニック、医療法人社団久保会久保会医院、たきかわクリニック、医療法人シーザーズ・メディ・ケア神部クリニック、こしお整形外科クリニック 【砂川市】 医療法人社団細谷医院、医療法人社団明円医院、砂川市立病院、医療法人砂川慈恵会病院 【歌志内市】 歌志内市立病院 【奈井江町】 岸本内科消化器科クリニック、奈井江町立国民健康保険病院、医療法人社団慈佑会方波見医院 【上砂川町】 勤医協上砂川診療所 【浦臼町】 浦臼町立診療所 【新十津川町】 医療法人社団和漢全人会花月クリニック、医療法人社団つつじ会空知中央病院 【雨竜町】 社会医療法人アンリー・デュナン会新雨竜第一病院	

	精神医療	医療法人仁恵会中野記念病院、医療法人社団博友会平岸病院、滝川市立病院、医療法人優仁会滝川中央病院、医療法人圭仁会佐藤病院、にかいどうメンタルクリニック、博友会滝川メンタルクリニック、砂川市立病院、医療法人砂川慈恵会病院、あかびら市立病院、医療法人圭仁会佐藤医院、医療法人脳神経よしだクリニック	
６事業	救急医療	救急告示：市立芦別病院、あかびら市立病院、滝川市立病院、医療法人翔陽会滝川脳神経外科病院、砂川市立病院、奈井江町立国民健康保険病院 救命救急センター：砂川市立病院	
	災害医療	災害拠点病院・DMAT指定医療機関：砂川市立病院	
	周産期医療	周産期母子医療センター：砂川市立病院、滝川市立病院	
	へき地医療	へき地医療拠点病院：砂川市立病院 へき地医療を支援する民間医療機関：社会医療法人アンリー・デュナン会新雨竜第一病院	
	小児医療（小児救急医療）	小児救急医療支援事業参加病院：砂川市立病院、滝川市立病院、あかびら市立病院	
	新興感染症発生・まん延時における医療	第二種感染症指定医療機関：砂川市立病院 医療措置協定締結医療機関：砂川市立病院、歌志内市立病院、奈井江町立国保病院、医療法人砂川慈恵会病院、あかびら市立病院、医療法人社団博友会平岸病院、市立芦別病院、社会医療法人アンリー・デュナン会新雨竜第一病院、滝川市立病院、医療法人優仁会滝川中央病院、医療法人優仁会若葉台病院、医療法人社団和漢全人会花月クリニック、上砂川町立診療所、医療法人社団みどり会 すながわ耳鼻咽喉科、佐々木内科クリニック、医療法人社団えべおつファミリークリニック、医療法人シーザーズ・メディ・ケア神部クリニック、たきかわクリニック	
在宅	在宅医療	在宅療養支援診療所：医療法人社団えべおつファミリークリニック、医療法人社団おおい内科循環器クリニック、医療法人社団そらち乳腺・肛門外科クリニック、医療法人シーザーズ・メディ・ケア神部クリニック、上砂川町立診療所 在宅療養後方支援病院：砂川市立病院、滝川市立病院	
外来	紹介受診重点医療機関	砂川市立病院	
その他	地方センター病院	なし	
	地域センター病院	砂川市立病院	
	地域医療支援病院	なし	
	特定機能病院	なし	

３ 将来的に不足することが見込まれる医療機能の確保対策等

（1）病床の現況及び2026年の見込み［医療機能別］

※医療機関別の結果は別紙参照

必要病床数（2025（R7）年推計）			高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等（今後再開）	休棟等（廃止）	合　計	区域内の現況、取組の方向性等
			124床	424床	435床	626床			1,609床	
参考	病床機能報告・意向調査（許可病床）	H28.7.1	26床	831床	168床	924床		68床	2,017床	
		R7.7.1	34床	625床	124床	815床	62床	8床	1,668床	
		H28年比	8床	▲ 206床	▲ 44床	▲ 109床	62床	▲ 60床	▲ 349床	
		2026	34床	580床	113床	833床		0床	1,560床	
		必要病床数-2026	▲ 90床	156床	▲ 322床	207床		0床	▲ 49床	

（2－①）不足することが見込まれる医療機能の把握等

不足することが見込まれる医療機能	病床機能報告以外に、将来的に不足する医療機能（患者数）を把握する方法等
高度急性期・回復期	地域医療構想調整会議において、各病院の担っている医療機能について詳細な情報共有を行い、不足又は過剰となることが見込まれる医療機能を把握する。

（2－②）不足することが見込まれる医療機能の確保対策（令和8年度以降の計画も含む）

No.	医療機関名	予定時期	病床機能転換の内容		整　備　等　の　概　要
1	あかびら市立病院	H30．4 H30．10 R2．3 R2．10 R3．7	急性期　30　床 →　回復期　30　床		急性期60床のうち12床（平成30年4月）、1床（個室）（平成30年10月）、4床（令和2年3月）、8床を回復期に転換（令和2年10月）。さらに、5床を回復期に転換（令和3年7月）。 （地域包括ケア病床計30床）
			基金の活用	調整会議での説明	
			なし	あり	
2	市立芦別病院	R3．11	急性期　8　床 →　回復期　8　床		急性期60床のうち休床していた7床含めて8床を回復期に転換（令和3年11月）。 （地域包括ケア病床計18床）
			基金の活用	調整会議での説明	
			なし	あり	

（2－③）不足することが見込まれる医療機能の確保に向けた取組目標及びスケジュール

医療機能	取組目標	スケジュール									
		H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
高度急性期・回復期	必要な病床の確保に向けた協議	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→

（3－①）医療機関の再編統合等に向けた動き

区　　分	開始時期（予定）	構成医療機関	主な目的
病院、診療所との役割分担・連携	H17	奈井江町立国民健康保険病院	平成17年度から地域センター病院との医療連携協定を締結している。
	H24	医療法人翔陽会滝川脳神経外科病院	平成24年度から、連携パスを活用し急性期治療後、当院回復期リハビリテーション病棟への転院システムを構築している。
	H30	医療法人社団和漢全人会花月クリニック	砂川市立病院に後方支援病院を担ってもらい、当院は前方医療機関として役割を果たしている。
地域医療連携推進法人			

（3－②）ICTを活用した地域医療情報連携ネットワークの整備状況（令和7年度以降の計画も含む）

No.	ネットワークの名称	整備年度	基金の活用	概　　要	登録団体・施設等
1	「砂川みまもりんく」 地域包括ケアネットワークシステム	H27	有り	砂川市立病院の電子カルテシステムに蓄積されているデータを各医療機関（医科・歯科）、調剤薬局、訪問看護ステーション、介護事業所、砂川市ふれあいセンター、砂川市介護福祉課、消防、などがリアルタイムに参照できることにより、地域完結型医療提供サービスが可能となる。	砂川市立病院他53施設・団体
2	「そらーねっと」 中空知医療連携ネットワークシステム	H28	有り	ICTを活用して中空知の6自治体病院で患者情報の共有を行い、患者の紹介・逆紹介を円滑に行い、効率的かつ安全な質の高い医療を提供し、検査の重複の解消等により患者の負担軽減を図る。	市立芦別病院、あかびら市立病院、滝川市立病院、砂川市立病院、歌志内市立病院、奈井江町立国民健康保険病院
3	「患者情報共有ネットワーク構築事業」 （中空知医療連携ネットワークシステム参画事業） 一般社団法人滝川市医師会	H29	有り	ICTを活用して中空知医療連携ネットワークシステム（そらーねっと）に接続を希望する12の滝川市医師会会員で患者情報の共有を行い、患者の紹介・逆紹介を円滑に行い、効率的かつ安全な質の高い医療を提供し、検査の重複の解消等により患者の負担軽減を図る。	医療法人祐仁会石田クリニック、医療法人社団おおい内科循環器クリニック、医療法人シーザーズ・メディ・ケア神部クリニック、こしお整形外科クリニック、滝川耳鼻咽喉科、医療法人優仁会滝川中央病院、医療法人翔陽会滝川脳神経外科病院、にかいどうメンタルクリニック、医療法人社団青藍会クリニック、医療法人脳神経よしだクリニック、医療法人優仁会若葉台病院、医療法人社団つつじ会空知中央病院

（3－③）医療機関の再編統合等の取組目標及びスケジュール

取組目標	スケジュール									
	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
病床機能の分化、転換に向けた協議	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
ICTを活用した患者情報の共有施設の拡大	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→

（4）非稼働病床への対応

年 次	病床機能報告制度		圏域における対応	
	非稼働病床数	前年比	検 討 内 容	取 組 内 容
H28	58 床			
H29	111 床	53床	現状では検討なし	特になし
H30	140 床	29床	各医療機関の現状を把握する	圏域で情報共有を図る
R1	150 床	10床	各医療機関の現状を把握する	圏域で情報共有を図る
R2	106 床	▲ 44床	各医療機関の現状を把握する	圏域で情報共有を図る
R3	106 床	0床	各医療機関の現状を把握する	圏域で情報共有を図る
R4	144 床	38床	新型コロナウイルス感染症によるものも含め、各医療機関の現状を把握する	圏域で情報共有を図る
R5	141 床	▲ 3床	各医療機関の現状を把握する	圏域で情報共有を図る
R6	71 床	▲ 70床	各医療機関の現状を把握する	圏域で情報共有を図る
R7	70 床	▲ 1床	各医療機関の現状を把握する	圏域で情報共有を図る

4 在宅医療等の確保対策

（1）在宅医療等の必要量

区 分			2026年（R8）	2029年（R11）
医療計画（地域医療構想）	在宅医療等			
	訪問診療	地域医療構想掲載ベース(a)	625 人	642 人
		新たなサービス必要量(b)	79 人	157 人
		計 (a+b)	704 人	799 人

（2）訪問診療を実施している医療機関数

区 分	H30（H28数値）	R1（H29数値）	R2（H30数値）	R3（R1数値）	R4（R2数値）	R5（R3数値）	R6（R4数値）	R7（R5数値）	R8（R6数値）
施 設 数	22	21	20	19	20	未公表	未公表	未公表	未公表
人口10万対	20.1	19.5	18.9	18.3	19.7	未公表	未公表	未公表	未公表

※厚生労働省NDB（ナショナルデータベース）によるデータ又は北海道医療分析センター事業によるレセプトデータ（北海道国民健康保険・退職国保、後期高齢者医療制度レセプトデータ）を掲載。
出典元を欄外に注釈として記載すること。

（3）在宅医療等の確保対策のスケジュール

確 保 対 策	スケジュール									
	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
在宅医療グループ診療運営事業の推進（一般社団法人滝川市医師会）	→	→	→	→	→					
訪問診療用ポータブル機器等整備事業（医療法人社団そらち乳腺・肛門外科クリニック）	→									
在宅医療推進事業（訪問看護ステーションの設置）（砂川市立病院）		→	→	→	→	→	→	→	→	→
訪問診療用ポータブル機器等整備事業（医療法人北武会野口病院）		→								

５ 地域（市町村）における取組

（1）医療と介護が連携した地域包括ケアシステムの構築に向けた基本的な考え方

市町村名	「在宅医療・介護連携推進事業」の実施内容等について
芦別市	医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい人生を最期まで続けることができるよう、地域の医師会を始め、在宅に関する医療機関等と介護サービスの事業者など、医療と介護の多職種が連携し、課題の抽出や地域資源の開発を目的とした研修・会議等の実施、また、広報やホームページを活用した市民への普及啓発など、在宅医療・介護連携の取り組みを推進する。
赤平市	介護保険事業と高齢者福祉事業の連携・連動を基本に、医療・介護の連携など、地域における様々な資源・人材・機能をリンク・連携させていくことで地域包括ケアシステムの推進を図る。地域における在宅医療・介護連携を支援する窓口としての地域包括支援センターの周知に努めるとともに、事例検討会や研修会を通し、医療と介護の「顔の見える関係づくり」を推進する。
滝川市	地域包括ケアシステムの構築及び地域医療構想の推進を図るため、平成28年度から医師会、保健所、サービス事業者等の関係団体・機関との連携を図りながら、在宅医療・介護連携推進会議の設置、医療・介護関係者の多職種連携による研修会・市民講座等の開催など、在宅医療・介護サービスの提供体制の構築推進に努めているところであり、引き続き在宅医療・介護連携事業の推進に努める。
砂川市	地域包括ケアシステムの構築及び地域医療構想の推進を図るため、地域ケア会議等の実施を通じて、関係団体や保健所との連携を図りながら、ICTを活用したシステムの活用及び改善や医療・介護従事者による多職種連携に関する研修会を開催するなど、在宅医療・介護サービスの提供体制の構築を推進する。
歌志内市	地域ケア会議を活用し、事例をとおして介護関係者と医療関係者が互いの分野の知識を共有し合い、連携を深めるとともに、サービス提供体制の構築を図る。
奈井江町	地域包括ケアシステムの構築を図るため、平成28年度から在宅医療・介護連携推進事業を実施し、町内関係機関や保健所との連携を図りながら、住民に対する相談支援、関係機関との連携、地域ケア会議等を活用した医療・介護関係者による事例検討や意見交換等を行い、在宅医療・介護サービスの提供体制の構築を推進する。
上砂川町	医療機関や介護事業所に対して研修会や事例検討を通じた意見交換に加え、住民への普及啓発や情報収集を目的とした講演会を開催し、連携の必要性を周知します。また、在宅医療・介護連携代表者会議を定期的に開催し、体制構築を推進します。
浦臼町	保健センターが相談窓口として住民に浸透されているため、今後も相談窓口についての周知を行っていく。ケースの相談内容に合わせた医療、介護等の情報提供を行っていく。地域支援事業の、生活支援体制整備事業や地域ケア会議推進事業とも関連させながら事業展開を進める。
新十津川町	地域ケア会議等の機会を活用し、関係機関との情報共有や協議を通じて連携体制を着実に構築していく。また、住民に向けては窓口における相談支援を強化するとともに、広報誌の活用により医療や介護の情報を発信し、知識の普及啓発を図る。
雨竜町	地域包括ケアシステムの構築及び地域医療構想の推進を図るため、地域包括支援センターが町民やその家族に対する相談支援を担いながら、医療機関連携室・介護事業所と地域ケア会議を定期開催し、顔の見える関係づくりを今後も進め、個別の事例から地域の課題を共有し協議を進める。 本町では、医療機関・介護事業所は広域的に利用していることから、地区医師会、保健所の連携会議の協議の場に参加し、また近隣市町や団体が実施する研修会に参加しながら、在宅医療・介護サービスの提供体制の構築を推進する。

（2）高齢者の住まいの確保

市町村名	取組目標		取組目標に対する達成状況
	年次	内　容	
芦別市	H30	サービス付き高齢者向け住宅の整備（定員11人）	平成30年4月からサービス提供を開始
赤平市	H30	軽費老人ホームを20床増床 特別養護老人ホームの建替え整備	平成30年４月から軽費老人ホーム20床増にてサービス提供を開始 平成30年10月から特別養護老人ホームを建替え、サービス提供を開始
滝川市	H29	認知症グループホーム（18床）の整備	平成29年3月からサービス提供を開始
	H29	特別養護老人ホーム（200床）・養護老人ホーム（50床）・軽費老人ホーム（50床）の建替え整備	建替えを完了し、平成29年7月からサービス提供を開始
	H29	介護老人保健施設（70床）の整備・サービス付き高齢者向け住宅（個室44室、2人部屋4室）の整備	平成29年11月（サービス付き高齢者向け住宅は12月）からサービス提供を開始
砂川市	H29	地域密着型特別養護老人ホーム（28床）の整備	平成30年４月からサービス提供を開始
歌志内市	H28	高齢者のための安心・安全な住まいとして高齢者用住宅1棟10戸を新築	100%（1棟10戸を建設）
奈井江町	H28	高齢者の居住に配慮した住環境整備を促進	奈井江町立国民健康保険病院内にサービス付き高齢者向け住宅16戸を整備し、平成28年12月から入居を開始
浦臼町	R2～R5	高齢者が入居できるよう公営住宅建設の促進	公営住宅等長寿命化計画により、令和2年度から公営住宅の建替を実施。令和2年度：2棟8戸、令和3年度2棟8戸、令和4年度2棟8戸、令和5年度1棟4戸を建設し、供用開始済み。
雨竜町	H30	食と住居を提供し24時間見守り体制のシルバーハウス（12室）の利用促進	12室満室

（3）その他医療・介護従事者の確保等

市町村名	対象職種	取 組 内 容	期待される効果等
芦別市	介護従事者	介護専門職を講師として行う介護職員初任者研修を介護事業所に委託して実施する。	受講者が市内の介護事業所等へ就労することにより、介護従事者の人材確保が期待される。
	看護師	市立芦別病院において、看護学生修学資金として、養成施設の在学者を対象に、卒業後に当院で勤務することを条件に、月額10万円以内（修学年数を上限）を貸与している。 また、院内保育所を開設し、看護師の確保及び福利厚生の向上に努めている。	看護師を確保し、地域医療の充実を図る。
赤平市	介護従事者	平成29年度から赤平市社会福祉協議会で介護職員初任者養成研修を実施し、事業費を補助した。令和2年度・令和3年度はコロナ禍の影響で実施できず、令和4年度、5年度は通信制にて実施した。 令和7年度からは、芦別市の介護職員初任者研修に参加させていただいている。	介護職員の就業確保が期待される。
滝川市	看護師	滝川市立病院において中学生、高校生を対象に職場体験学習（病院）を実施する。 また、学生を対象とした修学資金の貸付事業、院内保育所の定員拡充のほか、滝川市立病院に隣接して新築移転した滝川市立高等看護学院を令和4年4月から供用開始し、学習環境・利便性の向上を図るとともに、同看護学生の確保と就労推進等の施策を展開している。	将来の地域医療を担う看護師を確保するとともに、看護師の離職防止の効果が期待される。
	介護従事者	・介護入門的研修基礎講座の実施 ・介護事業者向け介護ロボット体験研修会の実施 ・介護職員の資格取得費用の助成	介護への関心を高めてもらうことや介護の質の向上・効率化・負担軽減の効果が期待される。
砂川市	介護従事者	市内で介護サービス事業所を運営する事業者に対して介護職員初任者研修及び介護福祉士実務者研修の受講料を全額助成する。	入所者に対する適切なケアが図られるとともに、介護人材の確保と安定した事業運営が見込まれる。
	看護師	看護学生修学資金貸与：養成施設の在学者に対し、卒業後に砂川市立病院で勤務することを条件に、就学に必要な資金を貸与する。令和7年度は64名に貸与した。	安定した医療従事者の確保を図ることにより、地域の基幹病院として、高度医療・特殊医療を展開し、住民の健康を守る。
	医師・医療従事者	ホームページ等による情報発信、大学、専門学校訪問、病院見学会を実施する。	医師等の医療従事者の確保が期待される。
歌志内市	介護支援専門員	困難事例等へのサポートをしていく。また、地域ケア会議において学習と連携を積み重ねていく。	市内の事業所のケアマネジャーが充足され、適切なケアプランの作成と、対象者に対応した適切な支援が展開される。

6 地域住民への広報活動

実施日	広報の種類	実施地域等	実 施 内 容	対象人数・部数
①H29. 7 ②H30. 3 ③H30. 11 ④R3.1.16	地域医療構想 リーフレット	①管内医療機関・市町 ②奈井江町・浦臼町 ③芦別市・赤平市 ④砂川市	①管内医療機関、市町にリーフレットの配付 ②③地域住民参加事業（道民笑いの日普及啓発事業）においてリーフレットの配付 ④「人生会議を考えてみよう（住民向けACP研修）」においてリーフレットの配布	①48機関・6710部 ②奈井江町・浦臼町（共催）：155人 ③芦別市：39人　赤平市：71人 ④35部
随時	保健所ホームページ		中空知地域医療構想調整会議の資料等の掲載	

7 調整会議における協議等

（1）協議の状況

開催日	親会・部会の別	協議・報告事項	協 議 等 の 結 果
H29.12.4	親会	・地域医療構想の推進管理 ・地域医療構想の推進に関する医療機関 ・市町村アンケート調査の概要・新公立病院改革プラン ・北海道医療計画（仮称）[素案]の概要	地域医療構想推進シートの作成については、部会等の開催に諮って作成し、親会議において合意を得ることで了承
H30.2.22	部会	平成29年度地域医療構想推進シートの協議	平成29年度地域医療構想推進シート（案）に係る意見聴取及び協議
H30.3.19	親会	平成29年度地域医療構想推進シートの合意	平成29年度地域医療構想推進シート（案）について合意
H30.8.24	親会・説明会	・北海道における地域医療構想の進め方 ・道内外の地域における取組事例 ・地域医療介護総合確保基金事業（医療分） ・地域の医療機関等に関するデータ ・医療機関の勤務環境改善	左記について説明会の実施

H30.12	意見交換会	各医療機関の地域医療に対する認識等の把握・共有	医師確保と病床機能に係る課題について共有
H31.1	部会	平成30年度地域医療構想推進シートの協議	平成30年度地域医療構想推進シート（案）に係る意見聴取及び協議
H31.2	親会（書面会議）	平成30年度地域医療構想推進シートの合意	平成30年度地域医療構想推進シート（案）について合意
R1.7.24	親会・説明会	・地域医療構想の取組状況 ・道内外の地域における取組事例 ・道の各種支援事業 ・勤務環境改善支援センター ・地域の医療機関等に関するデータ	左記について説明、質疑応答・意見交換の実施
R1.8.28	意見交換会	公立病院（急性期）長等による地域医療等に対する認識の共有	重点課題の設定に向けた課題の共有及び今後の進め方について意見交換
R1.9	親会（書面会議）	・中空知構想区域の「重点課題」の設定 ・外来医療計画中空知圏域シートの作成	重点課題（案）と外来医療計画中空知圏域シート（案）について合意
R1.12.6	意見交換会	各医療機関の地域医療に対する認識等の把握・共有	重点課題の取組状況及び従事者確保と病床機能に係る課題について共有
R2.1.23	部会	令和元年度（2019年度）地域医療構想推進シートの協議	令和元年度（2019年度）地域医療構想推進シート（案）に係る意見聴取・協議及び重点課題の取組状況共有、意見交換
R2.2.19	親会	令和元年度（2019年度）地域医療構想推進シートの合意	令和元年度（2019年度）地域医療構想推進シート（案）について合意。また、重点課題の取組状況共有、意見交換実施
R2.6.10	親会（書面会議）	・地域医療構想の取組状況 ・道内外の地域における取組事例 ・道の各種支援事業 ・勤務環境改善支援センター	左記について資料提供
R2.12.24	親会（書面会議）	令和2年度（2020年度）病床機能再編支援事業について	事業実施医療機関（勤医協芦別平和診療所）の病床削減計画についての意見聴取
R3.3.18	親会（書面会議）	令和2年度（2020年度）地域医療構想推進シートの合意	令和2年度（2020年度）地域医療構想推進シート（案）について合意
R3.7.15	親会（書面会議）	・地域医療構想の取組状況と今後の取組方針 ・重点支援区域 ・地域医療連携推進法人 ・ICT活用事例集 ・北海道医療勤務環境改善支援センター	左記について資料提供
R3.9.27	親会（書面会議）	・令和3年度（2021年度）病床機能再編支援事業について ・病床機能に係る病院開設等計画書の情報共有	・事業実施医療機関（そらち乳腺肛門科クリニック）の病床削減計画に係る協議 ・市立芦別病院の休床の再稼働の計画について情報共有
R4.3.16	親会（書面会議）	令和3年度（2021年度）地域医療構想推進シートの合意	令和3年度（2021年度）地域医療構想推進シート（案）について合意
R4.9.14	親会（書面会議）	・地域医療構想の取組状況と今後の取組方針 ・医師の働き方改革 ・医療分析センターによる地域分析	左記について資料提供
R4.11.15	部会	・北海道地域医療構想調整会議協議会について ・地域の状況について ・公立病院経営強化プランについて	左記について情報共有及び意見交換
R5.3.22	親会（書面会議）	・地域医療構想推進シート（令和4年度）に係る協議について ・医療機器の共同利用計画について 中空知地域医療構想調整会議開催スケジュール（案）について	左記について資料提供
R5.9.8	親会・説明会	・地域医療構想に関する国・道の動き ・地域の状況について ・医療機器の共同利用計画について ・紹介受診重点医療機関について ・特定労務管理対象機関の指定申請に係る協議 ・外来医療計画について ・感染症予防計画について	地域医療構想、地域の状況、紹介受診重点医療機関、外来医療計画について、感染症予防計画について説明 医療機器の共同利用計画（砂川市立CT）について情報共有 特定労務管理対象機関の指定申請（砂川市立）に係る協議 中空知地域の医療について意見交換の実施

R5.11.28	部会	・北海道地域医療構想調整会議協議会について ・地域の状況について ・公立病院経営強化プランについて ・中空知圏域におけるモバイルクリニックの検討について	北海道地域医療構想調整会議協議会、地域の状況について説明 公立病院経営強化プラン（滝川市立）に係る協議 中空知圏域におけるモバイルクリニックの検討について情報共有
R6.2.5	親会（書面会議）	・公立病院経営強化プランについて ・新型コロナウイルスについて	公立病院経営強化プラン（市立芦別、歌志内市立）に係る協議 北海道薬剤師会北空知支部から治療薬に係るお知らせ
R6.3.25	親会（書面会議）	・地域医療構想推進シート（令和5年度）に係る協議について ・公立病院経営強化プランについて	令和5年度（2023年度）地域医療構想推進シート（案）について合意 公立病院経営強化プラン（あかびら市立、砂川市立、奈井江町立国保）に係る協議
R6.8.20	親会・説明会	・地域医療構想に関する国・道の動き ・地域の状況について ・紹介受診重点医療機関について ・病床数の削減について	地域医療構想、医師の働き方改革、医療MaaS、地域の状況について説明 紹介受診重点医療機関（砂川市立）に係る協議 病床数の削減（砂川市立）に係る協議
R6.12.18	部会	・医療構想推進区域（モデル推進区域）に係る中空知対応方針について	医療構想推進区域（モデル推進区域）に係る中空知対応方針について説明・意見交換
R7.3.3	部会（書面会議）	・医療構想推進区域（モデル推進区域）に係る中空知対応方針について	医療構想推進区域（モデル推進区域）に係る中空知対応方針（案）協議
R7.3.19	親会	・医療構想推進区域（モデル推進区域）に係る中空知対応方針について ・病床数の削減について ・地域医療構想推進シート（令和6年度）に係る協議について	医療構想推進区域（モデル推進区域）に係る中空知対応方針（案）合議 病床数の減床について（病床機能再編支援事業／病床数適正化支援事業） 令和6年度（2024年度）地域医療構想推進シート（案）について合意
R7.9.4	部会	・中空知の状況について意見交換 ・先行地域の取組について勉強会・意見交換	中空知圏域内の状況について意見・情報交換 先行地域の取組(地域医療連携推進法人制度)の勉強会及び意見交換□
R7.12.24	部会	・モデル推進区域の取組について	新たな地域医療構想「医療機関機能」を先取りする形で中空知に当てはめ協議 上記を機能させる手立てとして、中空知対応方針で設定したテーマを協議
R8.3.19	部会	・モデル推進区域の取組について	中空知対応方針で設定したテーマ等の協議
R8.3.26	親会	・中空知モデル推進区域の取組について ・地域医療構想推進シート（令和7年度）について ・患者紹介について ・病床数の減床について（病床機能再編支援事業）	中空知対応方針で設定したテーマ等について合意 令和7年度地域医療構想推進シート（案）について合意 患者紹介対応について協議 病床数の減床について（病床機能再編支援事業）について合意

（2）「公立病院経営強化プラン」の進捗状況

病　院　名	プランの概要（地域医療構想関係）	プランの進捗状況
市立芦別病院	北海道地域医療構想（中空知圏域）等を踏まえた当院の果たすべき役割・機能として次の項目を担っていく。①入院機能、②外来機能、③救急医療、④新興感染症対応、⑤在宅医療、⑥健診事業	少子高齢化及び過疎化が進む中で、当市と隣接している「あかびら市立病院」とは、お互いに急性期の一部と回復期である地域包括ケア病床、慢性期である療養病床と同じ機能を有する公立病院として、２病院の機能分化・連携強化により、持続可能な医療提供体制の確保及び介護事業との連携を推進するために必要な医療連携推進業務などを行い、地域医療構想の達成及び地域包括ケアシステムの構築に資することを目的として、両病院だけではなく、行政も一体となって、一般社団法人を設立した。
あかびら市立病院	総合的に診療を行う病院として、外来から入院、在宅復帰まで一貫した医療を行うとともに、高度な医療や自院でまかなうことのできない医療を、砂川市立病院、滝川市立病院をはじめとする中空知医療圏の各医療機関との連携を図ることにより、住民が安心して医療を受けられるよう、体制の確保に努める。 また、住み慣れた地域で暮らし続けることのできるよう、回復期病床の設置と介護関連施設などとの連携の強化、訪問診療・訪問看護体制の充実を図り、在宅医療の中心的役割を担っていく。	平成30年度に一般病床60床の一部を「地域包括ケア病床」へ転換し、以来４年間で4回にわたり増床を重ね、計30床とした。 また、平成31年4月に「地域医療連携室」の設置と「在宅医療・健診センター」を開設し、入退院支援の強化と在宅医療の充実を進めてきた。 令和6年３月に、あかびら市立病院経営強化プランを策定した。 令和6年４月に、訪問看護ステーション「えなが」を開設し、訪問看護体制の充実を図った。 令和7年２月に、芦別市との間で一般社団法人中空知東部メディカルケアネットワークを設立し、地域医療連携の推進を図ることとした。 令和7年７月に、一般病床を49床（うち地域包括ケア病床30床）、療養病床を50床、合計99床に減床した。

滝川市立病院	滝川市立病院は、中空知医療圏域の中核的病院として、砂川市立病院と連携・補完し合いながら、地域完結型の医療提供体制を目指すことが役割である。その役割を果たすために、入院・外来とも現在の医療機能を維持していくことを基本方針とするが、受療動向の変化を踏まえ、令和8年度から許可病床を199床に縮小する。また、現在の医療機能を維持し続けるため、医師や看護師など医療人材の確保を重要なテーマと位置づける。中空知医療圏内における機能分化については、他市町の公立病院と議論を重ね、慎重に検討していく。	・令和5年11月28日開催の「令和5年度（2023年度）中空知地域医療構想調整会議専門部会」において滝川市立病院経営強化プラン案を説明し、承認された。 ・令和5年12月20日に滝川市立病院経営強化プランを決定した。 ・プランに位置付けた「機能や連携の強化に向けた目標数値」の達成に努めたほか、経営の効率化及びで設定した各目標を達成するために設定した8つの取組を推進した。 ・各団体の代表を委員とする経営強化プラン推進委員会を開催し、毎年前年度の実施状況を取りまとめた後、点検評価を行い、その結果を公表することとした。令和6年12月11日に委員会を開催し、令和5年度決算及び6年度決算見込みにおける進捗状況の点検評価を行い、公表した。 ・令和7年7月29日に令和8年度から許可病床数を199床に縮小など改善策を盛り込んだ「滝川市立病院としての経営改善に向けた取り組み」を作成し、市議会へ報告した。 ・令和7年11月6日に経営強化プラン推進委員会を開催し、令和6年度決算及び7年度決算見込みにおける進捗状況の点検評価を行ったほか、「滝川市立病院としての経営改善に向けた取り組み」を反映させた「滝川市立病院経営強化プラン（改訂版）」を説明し承認をいただき、これらを公表した。
砂川市立病院	R8.2改訂 ●「5疾病6事業と中心とした急性期医療の提供」の基本的考え方に変更はない ●地域包括ケア病棟（一般・回復期）44床及び一般病床43床（一般・急性期）の減床、紹介受診重点医療機関の届出について、R6年度地域医療構想調整会議において提案、合意を得た。これにより急性期医療への特化を目指す。 ●地域医療連携推進法人について、R8年度中の設立を目指したい。 ●砂川市（立病院）のみでは対応が困難な回復期・慢性期の入院機能、外来機能、在宅医療等については、市内及び近隣市町の医療機関や行政機関との連携強化を図る。	R8.2改訂 ●R6年度中から、院内での取組み及びコンサルテーションを活用し、病床削減、職員削減、業務委託の範囲を見直しするなど、職員一人が知恵と汗を出し、相応の覚悟と一定の負担を伴う改善を実施中。施策の効果額は8.7億円／年と算定している。 ●R8年の診療報酬改定においては、診療報酬・施設基準の維持やレベルアップを図り、DPC入院期間を強く意識しながら、効率的な病床運営を目指す。 ●プラン終了のR9年度までに経常収支比率100%超は難しいが、R9年度の目標を95.3%とし、赤字幅の縮小、黒字転換を目指す。 ●R6年度の評価委員会を3/4に開催し3月中に公表する。
歌志内市立病院	近隣の病院とそれぞれの役割を明確にし相互の連携強化を図ることにより、高齢化に伴い増加が見込まれる慢性期患者に対応する病院として、近隣の急性期病院及び介護施設等との連携をさらに深め入院患者の確保に努め、中空知圏域内の慢性期医療を担うとともに、市民のかかりつけ病院として、地域に根ざした安心できる医療サービスを提供していく。	当病院は、市民の初期医療を担うほか、高齢化に伴い増加が見込まれる慢性期患者に対応する病院として、近隣の急性期病院及び介護施設等との連携を深めながら入院患者の確保に努め、中空知圏域内の慢性期医療を担い、市民のかかりつけ医として、地域に根ざした安心できる医療サービスを提供している。また、市内唯一の病院として、内科、小児科の2診療科体制、入院は医療療養病床60床で運営している。
奈井江町立国民健康保険病院	奈井江町立国民健康保険病院では平成28年度に病床数を96床から50床に減らすことにより地域の実情に即した病床数にするとともに、削減分の病床をサービス付高齢者向け住宅に転換する事により、住み慣れた地域で安心して暮らし、医療を受けて頂ける地域包括ケアシステム構築や救急医療を維持する。	近隣病院との連携により、「かかりつけ医」としての外来機能と「慢性期機能を担う病床」として地域での役割を果たしてきている。 これまで培ってきた病診連携や病病連携をベースとしながら、中空知圏域の医療機関との連携を促進し、慢性期医療の受け皿としての役割を意識しながら、病院改革プランに基づき平成30年度に一般病床（18床）を療養病床へ転換し、50床全てを療養病床としており、急性期や回復期での治療を終えた患者を受け入れながらスムーズな転院調整を行い、病床稼働率を維持・向上を図っている。 経営改善に向けては、診療材料の共同購入への参加や各種契約単価等の見直しによる費用の縮減、診療報酬算定の適正化を意識することにより収益の安定確保に向けた取り組みなどを継続して進めているが、賃上げ・物価高騰により資金収支の改善に至っていない。

（3）「公的医療機関等2025プラン」の進捗状況

病　院　名	プランの概要	プランの進捗状況

（4）二次医療圏を越えた広域的な協議

開催日	協議の相手方	協　議　事　項	協 議 の 結 果

（5）圏域内のすべての医療機関（病院及び有床診療所）の参画又は情報共有に係る取組

区　　分	対　応　内　容
調整会議（親会・部会）に参加	地域医療構想調整会議に参画していない医療機関（病院及び有床診療所）への情報提供、意見聴取等の機会を設定する。
説明会の開催（情報共有）	地域医療構想説明会により、医療機関（病院及び有床診療所）に、国動きや道の取組、地域の状況について情報共有する。
その他	

（6）病床機能報告制度に係る取組

区　　分	目　的　等	調整会議への報告、議論の状況
未報告医療機関の解消	医療法に基づく報告義務に関する周知	保健所から未報告医療機関に通知
病棟の医療機能（病床機能報告の報告内容）の収れん	病棟の医療機能が毎年変化することのないよう周知	現状において特になし
2026年に向けて、過剰な医療機能に転換を予定する医療機関への対応	構想の推進に支障のある病床転換を行わないよう周知	市立芦別病院が「あり方検討委員会」の答申を受け、慢性期8床（31床→39床）を増床。検討経過については令和元年度第3回調整会議に病院から報告。

（7）地域で不足する外来医療機能の確保に係る取組

地域で不足する外来医療機能	現状・課題	取組状況
初期救急医療	（現状） 主に軽度な外来診療を行う初期救急医療は、市町ごとに医師会による在宅当番医制や二次救急医療機関により体制を確保している。 （課題） ・在宅当番医制を実施している市町でも二次救急医療機関が初期救急医療に一部対応している状況にあり、更に、住民の大病院・専門医志向等を背景に、軽症者の夜間受診が増加していることから、二次救急医療機関勤務医の負担が増大している。初期・二次救急医療機関の役割分担や連携体制の強化、救急医療機関や救急車の適切な利用に関する住民への普及啓発が求められている。 ・診療所の医師の高齢化が進んでおり、今後、在宅当番医制を実施している市町での制度維持が困難になっていくことも見込まれる。	今後、調整会議で協議する。取組の方向性は次のとおり。 市町を単位として現行の初期救急医療体制を維持する。限られた医療体制の中で初期救急体制を確保するため、医師会や初期・二次・三次救急医療機関の更なる連携に努める。
在宅医療	（現状） 在宅医療の提供体制の整備が求められているが、圏域に在宅療養支援病院はなく、在宅療養支援診療所も少ない状況である。 （課題） ・当圏域は、65 歳以上の人口割合が高いため要介護認定者や認知症患者など、自宅や地域で疾病を抱えつつ生活を送る住民が今後も増加していくことが考えられ、今後、訪問診療の需要増大に対応するため、機能強化型の在宅療養支援診療所や在宅療養支援病院の整備を進めていくことが必要である。 ・人口流出が進んでいる上、自治体内に訪問診療や訪問看護提供施設がなくサービスを近隣に求めざるを得ない地域がある、豪雪地帯のため冬期間の移動に時間を要するなど、在宅医療を提供する上で効率の悪い地域となっている。 ・介護や医療が必要になれば施設入所や医療機関で療養し、最期を迎える場所は医療機関を希望する、住民の施設志向の強さがある。	今後、調整会議で協議する。取組の方向性は次のとおり。 在宅医療の確保に向けて、入院医療機関と在宅医療を提供する医療機関の円滑な連携により、切れ目のない医療提供体制の構築を検討する。また、在宅療養中の患者の病状急変時に対応できるよう、病院・診療所、訪問看護ステーション等の円滑な連携による診療体制の構築を検討する。
学校医・予防接種等の公衆衛生に係る医療	（現状） 小児科を標榜する診療所が減少しており、また、小児科を標榜している診療所にあっても、内科診療所が小児科を兼ねている現状であり、小児科専門医が不足している状況にある。 （課題） 学校医は小児科や整形外科についての知識等も求められることから、専門知識を持つ医師の確保や学校医に必要な知識の研修を行う等、小児医療体制の確保が必要である。	今後、調整会議で協議する。取組の方向性は次のとおり。 公衆衛生に係る医療の確保に向けて、開業医や病院勤務医等の更なる連携を進める。
中核的医療機関への外来患者集中の緩和	（現状） 地域センター病院（砂川市立病院）へ、外来患者が多数受診していることにより、負担が増大している状況にある。 （課題） 医師の働き方改革等で労働時間を今後見直すことが必要となり、高度急性期・急性期を担う病院と、地域の診療所の連携を強化する必要がある。	今後、調整会議で協議する。取組の方向性は次のとおり。 高度急性期・急性期医療を維持するため、地域で診療する医療機関相互の役割分担や連携の強化、住民へ「かかりつけ医」の役割等について周知を図る。

8　本年度の取組に関する評価（課題）及び今後の方向性

区　　分	評　価　（　課　題　）	今後の方向性
将来的に不足する医療機能の確保	・あかびら市立病院は急性期病床60床のうち12床を回復期病床（地域包括ケア病床）に転換（平成30年4月）。以降、4度にわたる回復期病床への転換（増床）を重ね、計30床とした（令和3年7月）。 ・市立芦別病院は、令和3年11月に病棟再編を行い、回復期病床（地域包括ケア病床）に8床を転換（増床）。計18床とした。	2025年における各機能区分ごとの必要病床数に基づき、病床機能の分化に向けた協議を進め、切れ目なく円滑に患者の状態に応じた医療が提供できるバランスの取れた医療体制を構築する。

医療機関の再編統合等	・医師派遣を通じた医療機関の連携。 （砂川市立病院：圏域4病院、圏域外3病院、滝川市立病院：1病院、平岸病院：1病院） ・開放型病棟による病診連携（休止中） （奈井江町立国民健康保険病院）	中核的な医療機関が中心となって地域連携クリティカルパスの活用、かかりつけ医制度や医療機関相互の医師派遣等の促進を図る。
ICTを活用した地域医療情報連携ネットワークの構築	平成30年度から滝川市医師会によるネットワークシステムが稼働しており、「そら-ねっと」で患者情報を共有している。	基金を活用し参加医療機関の拡充を図ることで、二次医療圏全体のネットワークを整備する。
非稼働病床（病棟）への対応	・平成30年5月に医療法人社団久保会久保会医院は非稼働病床19床廃止。 ・平成31年1月に小林産婦人科医院は非稼働病床1床廃止。（令和元年閉院） ・令和元年7月に市立芦別病院は非稼働病床29床を廃止。令和2年7月にあり方検討委員会の答申を受けさらに1床を廃止。令和3年11月及び12月に病棟再編を行い、一部病床の転換等を行った（稼働病床数：令和3年11月以降「91床」※それ以前は「84床」であった）。 ・令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり非稼働病床が増加。 ・令和7年9月30日に滝川市立病院は休床中の病床44床を廃止。	地域医療構想調整会議において、再稼働及び病床の転換等について検討する。
在宅医療等の確保	・在宅医療を担う医療従事者が不足している。 ・砂川市立病院が在宅医療推進事業を活用し、平成30年度に指定訪問看護ステーションを開設。 ・令和4年8月に、24時間対応の訪問看護ステーションぴぴが開設。 ・令和6年4月に、あかぴら市立病院において、訪問看護ステーションえなが開設。 ・訪問薬剤管理指導が継続して行われるとともに、北海道健康づくり支援薬局や地域連携薬局等として認定される薬局が増加。 ・新型コロナウイルス感染症流行により、がん末期等終末期を含めた在宅療養希望者が増加。訪問診療・訪問看護を利用し、療養できるよう、関係機関の連携・調整がされていた。	・基金等を活用して、在宅医療等の確保・充実を図る。 ・地域医療構想調整会議及び中空知保健医療福祉圏域連携推進会議在宅医療領域検討会議等において、地域の実情に応じた在宅医療のあり方を検討する。
地域における取組 （高齢者の住まいの確保等）	・各市町において住まいの整備が行われた。奈井江町立国民健康保険病院においては、一般病床、療養病床からサービス付き高齢者向け住宅へ転換。 ・滝川市立病院に隣接して新築移転した滝川市立高等看護学院を令和4年4月から供用開始し、学習環境・利便性の向上を図るとともに、同看護学生の確保と就労推進等の施策を展開。	今後もニーズに応じた住まいの確保とともに、高齢者が安心して暮らすことができる環境の整備を図る。
地域住民への広報活動	・道が作成した「北海道地域医療構想リーフレット」を、住民周知用として市町、医療機関等に配付。 ・ホームページに中空知地域医療構想調整会議の資料等の掲載。	今後は、地域の協議を進める中で、市町等広報誌への啓発を検討する。
「公立病院経営強化プラン」の策定・進捗状況	医療構想調整会議・専門部会において、策定済みのプランについて協議を行った。また、各公立病院の策定状況についても情報共有を行った。	公立病院経営強化プラン策定に当たっての地域医療構想との整合性を確認し、策定後は、その概要について情報共有を図る。
「公的医療機関等2025プラン」の進捗状況	中空知構想区域には該当医療機関なし。	
二次医療圏を越えた広域的な協議	他圏域から患者を受け入れているが、退院調整に苦慮するケースが多い。	他圏域からの患者の流入に関し、今後の受療動向を注視するとともに、二次医療圏を越えた協議について検討する必要がある。
全医療機関参加型の調整会議の運営等	一般病床、療養病床を有する医療機関に対し、調整会議への参画を求める。	地域医療構想調整会議に参画していない医療機関（病院及び有床診療所）への情報提供、意見聴取等の機会を設定する。
病床機能報告制度に係る取組	対象医療機関の全てから報告が有るが、病棟単位で医療機能を選択するため、必ずしも実態が把握されていない。	引き続き、全ての医療機関に期限内の報告を要請する。
地域で不足する外来医療機能の確保に係る取組	医療構想調整会議において、「外来医療計画」の中空知圏域の現況及び課題について、あらためて共有。	地域推進方針（外来医療）の方向性に沿って課題等を検討し、取組を進める。